



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2016・06・13 第114号



笠間のつつじ祭りに行ってきました。晴天に恵まれ、満開のつつじを満喫してきました。昭和42年に市民によるつつじ一株運動により始まった「笠間つつじまつり」は今年で45回目を迎えます。約7haの園内には、様々な品種、約8,500株のつつじが植えられており、小高い山一面が真っ赤に染まる風景は見ごたえ十分です。特に新緑とのコントラストがきれいでした。

笠間といえば笠間稲荷神社が有名ですが、祭神(稲荷大神)は『古事記』によると宇迦之御魂神(うかのみたまのかみ)で、須佐之男命(すさのおのみこと)と神大市比売神(かむおおいちひめのかみ)の間の御子とされています。御創建は、社伝によれば第36代孝徳天皇の御代、白雉2年(651)と伝えられています。日本三大稲荷のひとつとして農牧、水産、養蚕を始めあらゆる殖産興業の神、蘇生(よみがえり)の神、生成発展の神、産霊(むすび)の神、火防の神として靈験あらたかな御神徳が普く全国の人々より崇敬されています。笠間市はその門前町として栄えてきました。

「お稲荷さん」と言えばキツネをイメージされますが、キツネはあくまで稲荷大神のお使いであって、神さまそのものではありません。キツネがお使いとして選ばれたのは、稲荷大神が農業神であることと深く結びついています。民俗学者の柳田國男も指摘しているように、日本人には古くから神道の原形として「山の神、田の神」の信仰があります。これは春になると山の神が山から里へ降り、田の神となって稲の生育を守護し、収穫を終えた秋に山へ帰って、山の神となるという信仰です。キツネも農事の始まる初午の頃から収穫の終わる秋まで人里に姿を見せていて、田の神が山へ帰られる頃に山へ戻ります。このように神道の原形である「田の神、山の神」と同じ時期に姿を見せるキツネの行動から、キツネが神使とされるようになったということです。



このお囃子のフィナーレは3匹の狐による和太鼓の乱れ打ちです。つつじ祭りでも披露されました。大迫力でした。保存会には小学生も加わっており、伝統は守られてゆくように思いました。

さて、ニッサンメールマガジン第114号をお届けします。

6月号のトピックスは技術紹介パンフレット：農研機構技術 2015 から 2 題選びました。

飼料用サトウキビを開発－南の島の牛のエサ不足に強い味方！－

子牛生産は南西諸島の基幹農業のひとつで、全国の約 13%が生産されています。しかし、島嶼部は耕地面積が少ないことや厳しい気象条件のため、粗飼料増産が極めて困難です。このたび、従来の基幹牧草の 2 倍の生産が可能な飼料用サトウキビ品種が育成され、その利用技術が開発されました。その概要は下記のとおりです。

- 暖地向けの新規飼料作物「飼料用サトウキビ」は、10 年以上再生利用でき、南西諸島の基幹牧草の約 1.5-2 倍の収量が期待できます。栽培・収穫は台風等による倒伏が回避できる年 2 回刈り体系が適しており、3 月上旬に植付けを実施し、8 月中旬から 9 月中旬にかけて 1 回目の収穫、翌年 5 月上中旬に 2 回目の収穫を行います。製糖用サトウキビで一般的に行われる収穫後の株揃え処理は再生後の乾物収量を減収させるため、実施する必要がありません。
- 従来の牧草よりも高収量・低コストで生産でき、そのサイレージは発酵品質に優れます。
- 繁殖牛では、ローズグラスサイレージやサトウキビ梢頭部の代替として飼料用サトウキビサイレージ 25kg/日/頭を分娩前後の 90 日間給与しても繁殖性に問題はみられず、肥育素牛、泌乳牛においても慣行給与体系に劣らない飼養成績が得られます。

お問い合わせ

九州沖縄農業研究センター広報普及室

Tel.096-242-7682

<http://www.naro.affrc.go.jp/karc/index.html>

堆肥化中に発生するアンモニアと熱を回収して利用するシステム

家畜ふん尿から堆肥を製造する際、堆肥発酵の過程でアンモニアや熱が発生します。アンモニアは悪臭の原因であり、また、熱はこれまで利用されていません。本技術は、堆肥発酵の排気を捕集してアンモニアと熱エネルギーを回収・利用することを目的としています。

- 従来技術では発酵に必要な空気を堆肥原料に吹き込み、排気は大気へ放出されます。開発した吸引型通気技術は、通気のコストは大きく変えずに、悪臭防止とエネルギー・資源の回収を可能としました。
- 排気を酸性液と反応させて窒素成分 6%程度の液肥を製造できます。
- 熱交換器により温水を作り、家畜の飲水の加温や暖房に利用可能です。

お問い合わせ

畜産草地研究所 情報広報課

Tel.029-838-8611

<https://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/inquiry/tech.html>

酪農・豆知識 第 107 号の概要および URL

農林水産省が平成 28 年 5 月に発表した農林水産研究基本計画に基づく研究開発ロードマップでは、情報通信技術(Information and Communication Technology, ICT)や「篤農家の有する技能、判断を可視化」するための人工知能(Artificial Intelligence, AI)の機能を

実装した「インテリジェントシステム」の構築が随所に出てきています。酪農の場合は、その象徴的なシステムは搾乳ロボットといえます。そこで、ICTやAI技術および最近特に注目を集めている「モノのインターネット」(Internet of Things, 略してIoT)の概要と酪農への応用場面について「酪農・豆知識」第107号にまとめてあります。なおこの第107号は第108号に続きます。

「酪農・豆知識」は、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「技術情報」をクリックし、「酪農・豆知識」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

お知らせ

印刷用のPDFファイル

PDFファイルをご利用いただくためには、Adobe Readerが必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・質問等

メールマガジンの配信の停止、登録内容の変更等は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしく願いします。

また、今後の配信が不要な場合にも[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。